学校番号	１０８

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	２年
使用教科書	「改訂版　現代の世界史」　（山川出版社）						
副教材等	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史という時間軸を感じる。
歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

２　学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・現代の諸課題を近現代史を中心をする歴史と結び付け歴史的観点から考察することができる。
・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的・地理的事象に対する関心と問題意識を高め，　意欲的に追究するとともに，国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし，我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し，国際社会の変化を踏まえ公正に判断して，　その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	諸地域世界の特質	・東アジア世界 ・南アジア世界 ・西アジア世界 ・ヨーロッパ世界	○	○	○	○ ○ ○ ○	a：・東アジアの特質に対する関心を高め，中国の皇帝政治や北方民族との関係，東アジアの国際秩序について理解する。 b：南アジアの多様性について関心を高め，南アジアの宗教に関する様々な資料を活用して，各宗教が及ぼした影響について考察し，その結果を適切に表現する。 c：西アジアに生まれたイスラームが広大な地域に急速に拡大し，独自の世界を形成したことを理解し，その知識を身に付ける。 d：ギリシア・ローマ文明がヨーロッパ世界の形成に与えた影響について把握し，その知識を身に付ける。	定期考査 ワークシート レポート
	大航海時代	・モンゴル帝国の形成と解体 ・世界の一体化の始まり	○	○	○	○	a：遊牧国家の特徴やモンゴルによるユーラシアの一体化について理解し，その知識を身に付ける。 b：「大航海時代」のヨーロッパとアメリカ大陸との接触・交流に関する資料を活用し，アメリカ大陸の先住民社会の変貌について理解する。 c：：ムスリム商人，中国商人の活躍についての資料を活用し，海のネットワークの概要と交流の具体的様相を把握し，基本的知識を身に付ける。 d：遊牧国家の特徴やモンゴルによるユーラシアの一体化について理解し，その知識を身に付ける。	定期考査 ワークシート

	アジア諸国の繁栄	・イスラーム世界の再編成 ・東アジア・東南アジア諸地域の変動と再編 ・近世の日本と世界	○ ○	 ○	 ○	○ ○	a： イスラーム世界の成熟について，オスマン帝国の宗教政策の視点から考察し，その結果を適切に表現している。 b： ・明・清帝国と朝鮮・日本との関係に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける c：ムガル帝国・サファヴィー朝・オスマン帝国の動向に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける d：14 世紀から 18 世紀にかけての陸と海の動向について関心を高め，アジア諸地域の特質とその中での日本の位置付けを理解する。	定期考査 ワークシート
2学期	近世ヨーロッパの成長	・16 世紀の西ヨーロッパ ・17～18 世紀の西ヨーロッパ ・16～18世紀の東ヨーロッパ	○	 ○	 ○	○ ○ ○	a： ルネサンスと宗教改革について関心を高め，その歴史的背景について考察し，その結果を適切に表現する。 b：主権国家体制の成立と大西洋貿易の展開によるヨーロッパ社会の変容について理解し，その知識を身に付ける。 c ：16 世紀から 18 世紀にかけてのヨーロッパ諸国の動向と国際関係の推移に関する資料を活用し，その知識を身に付ける。 d：世界の一体化とそれに伴うアフリカ・アメリカの変容について関心を高め，多角的に考察し，その結果を適切に表現する。	定期考査 ワークシート

2学期	近代の欧米社会	・イギリス産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命 ・反動と改革 ・ナショナリズムの時代	○ ○	 ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a： イギリス産業革命の背景を世界史的視野からとらえ，産業革命の結果，資本主義経済が確立したことを理解する。 b：産業革命が果たした歴史的意義について，関連する資料を活用して考察し，その結果を適切に表現する。 c： ・アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立について関心を高め，それらの背景と影響について多角的に考察し，その結果を適切に表現する。 d：ウィーン体制下での自由主義・国民主義の運動について関心を高め，その歴史的意義を考察し，その結果を適切に表現する。	定期考査 ワークシート
	ヨーロッパの進出とアジア	・バルカン・西アジア社会の動き ・インド、東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動	 ○ ○	○ 	 ○	○ ○ ○	a： ヨーロッパを中心とするアジアでの国際分業体制の形成について，近代世界システム論の視点から意欲的に追究し，19 世紀の世界の一体化とその特質を考察し，その結果を適切に表現する。 b：ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況，植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，伝統文化の変容，その中での日本の対応に関する資料を活用し，アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌について考察し，その結果を適切に表現する。 c：日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察し，その知識を身に付ける。 d：・ヨーロッパの植民地支配に対する抵抗運動の高まりや近代化の動きについての資料を活用し，ヨーロッパの侵略にさらされたアジア・アフリカの変貌と諸民族の民族的覚醒について考察し，その結果を適切に表現する。	定期考査 ワークシート

3学期	帝国主義とアジアの民族運動	・欧米による世界の分割と植民地化 ・民族運動と列強の対立	○ ○	 ○	○	○ ○	a：・帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したか，意欲的に追究する。 b：・帝国主義列強の植民地支配についての資料を活用し，民族・国境など現在まで残る問題と関連付けて考察し，その結果を適切に表現する。 c：19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての社会の急激な変化についての資料を活用し，現代の社会と関連付けながら考察し，その結果を適切に表現する。 d：・19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化を意欲的に追究し，現代社会の原型が成立したことを理解する。	定期考査 ワークシート
	二つの世界大戦	・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ・民族主義の新展開 ・世界恐慌とファシズム ・第二次世界大戦	○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a： 第一次世界大戦についての資料を活用し，第一次世界大戦の性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について考察し，理解する。 b： ロシア革命とソ連の成立について，政治的・思想的影響について考察し，その結果を適切に表現する。 c：国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実，アジア諸国の民族運動について理解し，国際社会の枠組みの変化について把握する。 d： 国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実，アジア諸国の民族運動について理解し，国際社会の枠組みの変化について把握する。	定期考査 ワークシート

3学期	冷戦の時代	・冷戦の形成と第三世界の登場 ・核戦争の危機 ・多極化と緊張緩和	 ○ 	○ ○ 	○ ○ ○	○ ○ ○	a：米ソ両陣営の対立，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立に対する関心を高め，1970年頃までの世界の政治・経済の動向について考察し，その結果を適切に表現する。 b：米ソ両陣営の対立，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立についての資料を活用し，1970年頃までの世界の政治・経済の動向について理解する。 c：アジア・アフリカの民族独立運動，第三世界の台頭とその国際的役割，アジア・アフリカ諸国が抱える諸問題について理解し，その知識を身に付ける。 d：・1970年代以降の地球社会形成に向けての諸地域世界の情勢に関する資料を活用し，その知識を身に付ける。	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。